

平成22年度 千鳥福祉会後援会総会を開きました

去る5月18日(火)に平成22年度の総会を開催しました。平成21年度事業並びに決算報告、監事監査報告、そして同時に平成22年度事業計画と予算案の審議を行いました。会員総数179名中、出席者51名、委任状78名の129名の賛同を得てすべての議案が承認されました。

厚くお礼を申し上げます。



①H21事業報告 (H 21. 4. 1～H 22. 3. 31)

- 4月23日 千鳥福祉会後援会座談会
「次世代エネルギーについて」
- 5月9日 監事監査会
- 5月11日 総会
- 7月19日 千鳥福祉会サマーフェスタ2009共催参加
- 8月7日 サマーフェスタ拡大反省会
- 1月26日 理事会
- 6月、1月 後援会便り発行

H22事業計画 (H 22. 4. 1～H 23. 3. 31)

- 5月11日 監事監査会
- 5月18日 総会
- 7月18日 千鳥福祉会サマーフェスタ2010共催参加
- 8月11日 サマーフェスタ拡大反省会
- 1月 日 理事会
- 6月、1月 後援会便り発行

②H21決算報告 (H 21. 4. 1～H 22. 3. 31)

【収入】

費目	本年度決算額	摘要	予算額
会費収入	711,000	法人 29社 個人 87名	700,000
雑収入	14	預金利息	100
繰越金	129,304	H20繰越金	129,304
計	840,318		829,404

【支出】

費目	本年度決算額	摘要	予算額
事業費	500,000	サマーフェスタ2009	500,000
会議費	38,253	総会	60,000
通信費	39,740	切手、はがき	41,000
手数料	6,795	振込手数料等	6,000
印刷製本費	92,900	後援会便り	100,000
雑費	0	香典	10,000
10周年記念立金	130,000		113,404
計	807,688		725,738

※H21収支差額32,630円を次年度へ繰越

【収入】

費目	本年度予算額	前年度決算額比較	摘要
会費収入	700,000	39,000	法人 49社 個人 130名
雑収入	100	86	預金利息等
繰越金	32,630	▲96,674	H21繰越金
計	782,730	▲57,588	

【支出】

費目	本年度予算額	前年度決算額比較	摘要
事業費	500,000	0	サマーフェスタ2010
会議費	40,000	1,747	総会
通信費	40,000	260	切手、はがき
手数料	7,000	205	振込手数料等
印刷製本費	100,000	7,100	後援会便り(年2回)
雑費	10,000	▲34,270	
10周年記念立金	95,730	▲32,630	10周年記念準備金
計	782,730		

○新規加入会員紹介

- | | | | | | | |
|------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 個人会員 | 吉岡 彰様 | 伊藤 立身様 | 大西 秀治様 | 星野 富則様 | 清水 匡様 | 平岡 賢様 |
| | 前田 明美様 | 小山 明子様 | 奥村 学様 | 坪倉 穂様 | 佐藤 洋美様 | 竹内 朋宏様 |
| | 内藤真由美様 | 美多 芳一様 | 藤井 教子様 | 澤田美代子様 | | |



写真提供 多久和宏朋氏

いよいよクライマックスに近づいてきました。ピーク時はさすがに迫力がありません。小型船舶の船頭は渦に巻き込まれない様に又、間近で観光客に見て貰える様に操船をうまく操っていましたが、撮影しているも案外小舟が渦に飲み込まれるんじゃないかと思っていました。

第9回千鳥福祉会 2010 サマーフェスタ

2010年7月18日(日)
午後4時～午後9時

会場 持田寮・L.C.C.ういんく (前庭・体育館) 松江市東持田町1415

千鳥福祉会の
ホーランエンヤ
オープニングを飾る!

山陰放送 総合司会
丸山 聡美

ゲスト
第13回NHK熱血
オヤジバトル!
中四国ブロック
グランプリ受賞
ESHICO
特別出演!

山陰屈指のFUNKYバンドが
サマーフェスタ外はやって来る!

今年もやります。雨でもやります。後援会や地域の皆さんに支えられて続けてきた祭り。なかなかのものだと評判です。だまされたと思って、まだ来られた事がない方は一度のぞいてみてください。ハンディキャップの有無など関係なく、来て下さった方みんな楽しんでいただくこと間違いなしです。

そして、今、千鳥福祉会の体育館では、火曜日と木曜日に夜7時ごろから9時ごろまで、オープニングで披露する「ホーランエンヤ」の練習をしています。大井町の有志のみなさんが指導に来て下さっていますから本物に近づけるよう必死で頑張っています。外部からも唄の応援をして下さる方があれば大歓迎です。一緒に練習をして当日舞台上で唄いませんか。お待ち致しております。後援会もサマーフェスタも今年は9歳、感慨深く、また、永きに亘る支援に心から感謝の意を表します。

千鳥福祉会 理事長
山本 昌子

Support News

後援会便り

社会福祉法人 千鳥福祉会

〒690-0814 松江市東持田町1415
TEL.0852-24-8820 FAX.0852-24-8825
ホームページ: <http://www9.ocn.ne.jp/~chidori>
メールアドレス: chidorifukushikai@luck.ocn.ne.jp

2010年6月15日 No.18

「新規環境事業への挑戦」



千鳥福祉会後援会 会長
稲塚 公郎
(松江土建株式会社 相談役)

「どんどん広がる、100～200メートルの範囲にまでも、決して泡立つことなく酸素が水に溶解込み、湖底で静かに速く上昇することもなく広がり続けるのである」何と言う不思議な現象だろうか、この現象が確認出来た時、担当社員達は一斉に感嘆の声を上げ合った。平成12年に環境部を新設し環境事業の開発に着手して以来、この技術が基本となりその後の水質改善機器の開発に発展した。

当社は、建築や土木工事の施工を本業とする総合建設会社である。しかし近年は公共事業への投資が大幅に削減され、民間設備投資や住宅投資も冷え込み経営環境は本当に厳しくなっている。ベンチャー企業の新規事業への挑戦は、千に一つの成功があるかないかと言われている厳しい世界であるが、大きな不安を抱えながら将来のために異業種に参入すべく挑戦を始めたのである。

全くの素人集団が手探りで始めた訳であるが、幸いなことに時代は我々に味方してくれた。その頃から国内では「産学官連携」の重要性が各方面で再認識され、各研究機関の門戸は開かれていた。当社もその手法を取り入れ島根大学や松江高専を始め、県外の多くの

大学や研究機関との連携を構築する事が出来た。人材は大学や他企業から採用し、専門の先生方の指導を受けながら、社員の懸命な努力もあり研究開発は少しずつ前進した。学会や各種研究会に積極的に参加し、やがて認められて研究発表を重ねていった。そして全国の産学官連携の力を借りながら情報を集め、製品を試作し実験に参加するまでになった。一番大きかったのは、つくば市にある国の研究機関である(独)土木研究所との出会いであり、共同研究をすることが出来た事である。知らない事が多かった中で、研究や開発などの力を付けることが出来たと感謝している。

このシステムは酸素を湖底で効率よく供給することにより、貧酸素状態を酸素リッチな状態に変えて生物達の生存を可能にし、よって水中の環境を改善することを目的としている。現在担当部の技術者達は、全国へ出かけシステムの説明や新技術のPRに努め、効果の認知と普及のために必死で販売促進に精を出している。

異業種参入の世界は誠に厳しい世界であるが、常に大きな夢のある世界でもある。水質浄化などの環境改善の技術は、人類が将来必ず必要となる技術であるという強い信念でさらなるレベルアップに挑戦したい。

一般的に事業の成功とは、まず投資があり研究や開発を進め、製品を作りその製品の品質と機能が世間で受け入れられ、その結果僅かでも利益が上がり投資の償却が可能となり、さらに雇用の継続が出来なければ成功とは言えない。関所はまだまだ遠くまで多数存在している。

何とか社員一丸となって成功させたいと願っています。そして如何なる困難があっても自己責任を持って挑戦すれば、必ず出来るということ島根の地から発信したいと願っています。

「じじいの女房」



千鳥福祉会後援会 副会長
伊藤 立身
(和幸電通株式会社 参与)

入梅の候の足音が近くなりました。今年の気候は誠に不順で、暑くなったり寒くなったり、高齢の方は、体調管理に大変苦労されている季節とお察し申し上げます。千鳥福祉会後援会会員の皆様には、毎日、ご健勝にてご活躍の事とお喜び申し上げます。去る、5月18日に開催された、千鳥福祉会後援会平成21年度総会も、皆様のご協力によりまして、とどこおりなく収める事が出来ました事、心から感謝申し上げます。有難う御座いました。皆様には、引き続きのご協力を宜しくお願い申し上げます。

「後援会便り」の発行時期となりました。「テーマ」は皆様にも多少なりとも興味を持って頂けるものは「何が良いかな」と考え、以前に投稿した後援会便りの「だんだん(テレビ放映)」を思い出し、今春、始まった「ゲゲゲの女房」をもじって、「じじいの女房」にしてみました。

ちなみに、「じじいは(今)時(じぶん)の爺(じじ)」です。家族から「爺(じじ)」と言われている私の事です。「じじい(私)の

女房」と結婚して最初の生活は、築後数十年経つ古い農家の納屋の一角を改造した、6畳一間(流し、便所、風呂付)の間借り部屋から始まりました。「ゲゲゲの女房」のテレビで見る住居と大差は無く、当初の生活状況がよみがえり、「じじいの女房」と大変楽しく思いつながら、この文章を読み談笑しております。このような要素も有り、今回の「テーマ」に致しました。今後のドラマの展開に、大変興味を持って見る事が出来ます。

あれから33年超の時間が過ぎ、私の仕事の変遷をたどれば、現場職、営業職そして総務職と変わり、その都度「仕事・仕事」と自分勝手な理由を掲げ、帰宅時間の不規則(夜業、接待等)にも関わらず、「じじいの女房」は文句を言いながらも、長い年月の間、理解と協力をしてくれたと思っております。おかげで、つつがなく会社務めを全うする事が出来、目出度くこの度、定年を迎える事が出来ました。余裕が出来たら、仕事の変遷に伴う各業務担当時代の「自叙伝」でも書いてみる事も一つかも知れません。

いつれにしても、「じじいの女房」とその子供達のこれまでの支えに心から感謝をしつつ、互いの健康に留意しながら、今後の「第3の人生」を共に歩んで行きたいと思っております。



「私の畑」

千鳥福祉会後援会 副会長
長 嶺 幸 恵

長年我が家のおじいさんが作っていた畑をハトントンタッチし、私が作り始めて三年が経ちました。

几帳面なおじいさんだったので、畑はきっちりと手入れが行き届き、「草はどこ？」という位に、庭のような畑でした。

当初は、荒らしてはいけないと一生懸命おじいさんがやっていたように耕し、同じ種類の野菜を作っていました。

そんなときに「女性に贈る言葉 365日」という本に、「苦勞し頑張った分だけ喜びも倍になる、それが人生の道理です。最初はだれでもなかなか思い通りにはいかないものです。しかし、あきらめずに挑戦し続け壁を乗り越えていけば、それが自信へと変わっていく、思いもかけなかった自分の力に気づくことができる。」とありました。その言葉に勇気づけられ、いつか必ず自分にも出来る、出来ないはずはない、と諦めずに頑張っていました。

畑を見た人が「よく手入れされていますね」「おじいさんの時と同じように出来ていますね」と声をかけてくださり、ついに「おじいさんの時より上手に出来ていますね」という声が聞けた時には「やった!」と思いました。やっとおじいさんの畑から私の畑になった気がしました。私もやればできるんだと思え、畑作りにも自信が持てました。何を作ろうか、何を蒔こうか、どんな肥料を使おうか、なるべく無農薬にしようか・・・と、楽しんで畑仕事ができるようになりました。また、収穫できた時の喜びもひとしおで、人に差し上げて喜んでもらえる嬉しさも経験出来ました。おじいさんに感謝です。

しかし、今年は寒いせいか玉葱の収穫ができず、さつまいもも植えられないのです。苗がなくなったらどうしよう、と思いながら、今年は新たな発見と思いがけない自分の力に気づくチャンスかも、と期待しつつ、違うものを植える挑戦を試みようかと思っています。



今年もサマーフェスタが成功しますように

千鳥福祉会後援会 監事
岩 崎 光 春
(クリエイティブプロダクションアズ代表取締役)

後援会監事の岩崎です。
今年も天候が不順ですね。気づいてみれば来月中旬にはサマーフェスタの本番です。

そろそろ梅雨入りの声も聞こえてきそうですが、今年も雨の中のイベントになってしまうのでしょうか?昨年初めてどしゃぶりの祭を経験しました。もう何が起きても恐くない!という感じですが、せめて梅雨の中休みを期待したいものです。

地域のみなさんと共につくる祭ですから、重要な事は祭を「楽しむ心」ですね。天気がよくても悪くても、気持ちひとつで変わると思います。今年もみなさんの「楽しむ心」に期待したいと思います。

ところで天候不順は日本の政治も同じ。誰のための政治なのかと疑問を感じる人は多いと思います。日本人は、物事に対して意見を共有、協調しない民俗と言われています。そういう意味では、政治家を選んでいる私たちにも責任がありますね。地域を良くするためにも、私たちがもう少し意見を言わないと変わらないかもしれません。これからの日本は私たちの生活は、もう少し、色々な人との協調が必要だと思えます。一人でできないことは二人ならできる・・・これが基本ですね。笑う相手がいるから楽しい。そんな小さな事の積み重ねが日々を変えるかもしれません。

祭も、政治も、生活も、当事者は私たち「人」なので。みんなで楽しい日々を創造したいですね。今年もサマーフェスタが成功しますように!!



「できること」

千鳥福祉会後援会 監事
青 山 まゆみ
(株式会社ピープル 代表取締役)

突然ですが、後援会の会員になる目的って何だと思いますか?是非私も後援会に入らせてという方もいらっしゃると思いますが、付き合いで仕方なくという方もいらっしゃると思います。

千鳥福祉会の夏祭りは来年 10 周年を迎えることとなりますが、毎年二千人以上の方が足を運ばれるという正に地域に根付いた祭りになりました。

特に昨年はあの豪雨の中での開催。パンフレットには「雨天の場合は体育館にて開催」→ウソです。あの雨さえも祭りの感動の要素にしてしまう・・・恐るべし・・・。

ということで私の結論は会員になるということはお金や身体を気持ちを含めて差し出すということです。もちろん両方というのは大歓迎ですが、夏祭りに参加できない方は会費を払って間接的に運営費の一部となって祭りに参加する。参加できる方はボランティアでもお客さんでも全身で祭りを楽しみ感動していただく。

まずはそこから輪(理解者)を広げていく。その仲間づくりの声かけが私のまず「できること」かなと思うこのごろです。



千鳥福祉会後援会 理事
野 津 瑞 江
(株)神谷鉄筋 常務取締役)

こんにちは、緑がきれいな季節になりました。万物が芽吹くこの季節は、本当に元気な気持ちにさせてくれます。

さて、我が社はコンクリートの中に入る鉄筋を工場加工して現場で組み立てる会社です。簡単に言うと橋とかビルなどの一部を組み立てる建設業です。ご存知のように「コンクリートから人へ」の政策によって、最近では仕事が激減しています。この業界では倒産とか廃業という声を毎日のように耳にします。本当に先行きが見えなくて、川を流れる木の葉のようで、できればしっかり根を下ろした杉の木のように、まっすぐ伸びたいものだと思います。

少し前からネガティブな考えはやめて、できれば前向きにポジティブに考えるようにしています。不況であってもなくても、他人に感謝して、思いやりを忘れずに仕事に打ち込もうと思います。

雨の後に草花が大きくなるように、今の不況も会社の肥となるように頑張ります。



幸せ感に包まれるために

中国生産性本部
西 川 三 佐 子
(セミナープロデューサー)

テーマは、何でも良いとのことなので、人材育成の仕事を通じて、日頃から大切に思っていることを書かせていただきたいと思います。

幸せを感じる4つのこと

今まで、たくさんの方に出会って来て、共通していることは、人は誰もが幸せになりたいと思っているということです。誰一人として、心から不幸になりたいと願っている人はいません。

幸せになるには、お金が必要という話もよく聞きます。確かに、生活をするために、お金は必要です。でも、お金があれば幸せになれるかという、どうも、そうとばかりは言えないようです。なぜなら、私は、お金持ちなのに不幸だと言っている方もたくさん見てきたからです。

どうやら、色々勉強していくと、幸せを感じるには4つの大切なことがあることに気がきました。

- ①自分を認め信じる(自信)
- ②他人を信じる(信頼)
- ③人の役に立つ(感謝される)
- ④自分は恵まれていると思える(感謝する)

「自分を認め信じる」

①の「自分を認め信じる」は、「自分を愛する」という意味も含まれています。私は、以前、「自信」が全く無い中で、「謙虚」になろうとしたことがあります。それは、謙虚になることが大切だと学んだからでした。しかし、「謙虚」になろうとすればするほど、「卑屈」になっていきました。すると、人とのコミュニケーションも上手いかわなくなり、私にとって想像以上に、「自分を認める」とか「自信を持つ」ということは、とても難しいことでした。

それでは、どうしたら、自分を認め信じることができるのでしょうか? そのためには、自分の周りの方の支援が必要となります。特に、上司の方・先生・ご両親に、褒められたり、勇気づける言葉をかけられると、「自分を認め信じる」という気持ちが芽生えてきます。「すごいね!」「よくできたね!」「大丈夫! あなたなら、できるわよ!」という、プラスのコミュニケーションです。

そして、自分を認め信じられるようになると、②の「他人を信じる」という心が自ずと生まれはじめます。



千鳥福祉会後援会 総会に出席して

秋 広 良 昭
株式会社パタカラ (歯学博士)
代表取締役

遠方の東京にいるため、千鳥福祉会後援会の活動には会費納入しかご援助できず、いつも心苦しく感じておりましたところ、会報「つばき」で後援会総会があることを知りました。日頃のご無沙汰のお詫びを兼ねて是非出席させて頂こうと思い至り出席した次第です。

私も仕事から、日本中の沢山の施設をお訪ねして参りました。理事長、施設長と職員が一体となって障害がある方の幸せのために頑張っている施設もあれば、トップが笛吹けど部下は踊らざる施設もあれば、見ているだけという施設もあります。この千鳥福祉会は長い歴史を持つ施設だというだけでなく、理事長が失礼ですが私より年長にも拘らず常に「何とかせにゃらん」という熱いお気持ちを

「自分は恵まれていると思える」

④の「自分は恵まれていると思える」の、「自分は、」がとても重要だと私は思っています。他人がどう思っても構わないのです。極論を言うと、他人が不幸だと見ていても、「自分が、」幸せと思ったらその方は幸せなのです。人と比較する幸せではなく、自分が自分のものさしで幸せであると思えることが重要だと私は思っています。

それでは、どうしたら、自分は恵まれていると思うことができるのでしょうか? これも、自分の周りの方の支援が必要となります。やはり、上司の方・先生・ご両親・職場の方・ご家族に、困った時に助けてもらったり、支えてもらうと「自分は、本当に恵まれているな」という気持ちになり、感謝の想いが芽生えてきます。「この会社に勤めることができて良かった」「この上司と一緒に仕事できて本当に嬉しい」「この先生と出会えて本当に良かった」「お父さん、お母さん、ありがとう」と感謝が生まれると、自分も誰かのために尽くしたいという気持ちが自ずとあらわれ、③の「人の役に立つ」ことに心と体が素直に動きはじめます。そして、自らも人から「ありがとうございます」という言葉をかけられるようになります。

幸せ感と仕事

②の「他人を信じる」(信頼)と、③の「人の役に立つ」(感謝される)は、仕事をする上での基本です。仕事とは、幸せを感じられる要素が入っていて、それが高まると対価に結びつくという素晴らしいシステムであるように私には思えるのです。

仕事は、決して楽なものではありません。しかし、周りの人と良い関係を築き協力しながら、惜しみなく自分の能力を発揮し、今まで出来なかったことが出来るようになり、お客様に感謝されることを体験すると、やりがいや成長を感じ、幸せな気持ちに恵まれると思えます。

私は、今まで、日本全国の素晴らしい経営を実現されている企業を訪問させていただきました。健全な進化を続けている会社は、この4つが、存在していました。それが根付き企業風土となっていました。社員がイキイキと働いていました。そんな企業が私の街にも増えたら、地域の雰囲気も明るく活気が溢れていくと思えます。

今、自分から、はじまる・・・

幸せの好循環のスタートは、今、自分の隣にいる人に、あたたかい言葉をかけることから始めていくと私は信じています。隣の人が、自信がもてるよう、そして、あなたがそばにいてくれて嬉しいと思ってくれて幸せ感を共有できるよう、勇気を持ってプラスの言葉をかけはじめると、きっと、今より、未来は素敵に変わっていくと思うのです。

持ち続け活動し、それに職員の皆さんが積極的に付いて行くという理想的な状況にあると感じておりました。総会に出席して後援会長も素晴らしいことが分りました。褒めてばかりいては進歩がないので、1点申し上げますので参考にしてください。

福祉施設の理想的運営のためには「モチベーション」という重要な要素があります。

職員各自の労働の目的が自分や家族の生活のためとか、より良い生活のため等を目指して働くのではモチベーションとして不十分です。どんな職場環境でもモチベーションとして大事なことは職員全員と理事者両者が「お金でなく、みんなで喜べる共通の仕事をしている」のだという意識の共有が大事です。その点が明確に示されていない場合は、今は職場環境が良くともいずれマンネリに陥りやすいという懸念があります。そのためにも、日頃から、事前または事後のミーティングでの発表機会を確保され、新しい知識を共有する意欲を大事にされる事だと思います。しばしばミーティングの中で失敗例や成功例の互いの披露をすることはお互いの技量を高めることにも繋がります。